

Y02a 日本天文学会男女共同参画委員会による理系進路選択支援事業

日本天文学会男女共同参画委員会（黒田 武彦(委員長)、木村 かおる、田代 信、富田 晃彦、林 左絵子、望月 優子）

日本天文学会は天文学の進歩及び普及を目的としている。直接に普及事業を行うことはしていないが、本年度は男女共同参画委員会が科学技術振興機構（JST）より委託を受け「女子中高生の理系進路選択支援」事業を行ってきたので、ここに速報をする。男女共同参画に関する学会としての取り組みは、本委員会の活動より以前から盛んに行われており、特に学会期間中の託児室設置は諸学会に先駆けて実現されている。本委員会の設置は、むしろ他の学術団体の同様な委員会やその連合組織との連絡窓口という役割がきっかけであった。しかし現在社会的に大きく取り上げられている理系離れ対策の一環でもある上記 JST 事業の委託を受けることができたため、天文学会の先兵として、天文教育委員会の協力などを得ながら、今年度はアウトリーチのさまざまな企画・実施に携わった。委員の所属が生涯学習施設、大学、研究機関にわたることから、その連携を有効に活用した。

今年度は世界天文年を含むこともあり、ハンズ・オンとしていわゆる「君もガリレオ」望遠鏡の工作教室、プラス大学の進学先から職場・職業の紹介も含むようなキャリア講演を行ってきた。会場としては女子校に出向いての出前授業や、生涯学習施設での工作教室・特別講演が主なものである。本委員会がそもそも女子中高生だけを対象にする活動をしたいのではなく、そうした生徒も含めて広く様々な方々向けの活動の一環である。12月10日時点で13件のイベント・授業を終えた。中学生の場合には進路に関する意識がまだ無いが、高校生になると学部・学科の質問など具体的なものが出てきている。文系指向の生徒でも望遠鏡工作教室に参加するあたりは、天文分野の入りやすさや様々な関心に基づいての入り口の広さを示している。学会アウトリーチとしては関心の喚起ができていると考えている。